

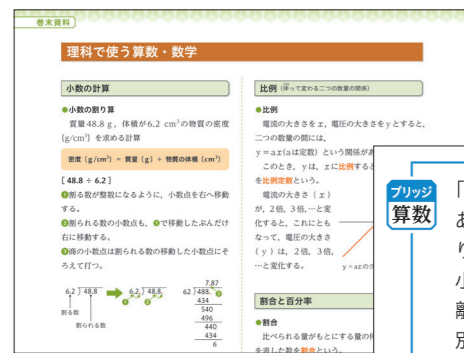
小・中・高の接続と他教科との連携

学習の深まりや広がりをもつために、**小・中・高の接続**や**他教科との連携**を意識した工夫を行っています。

これらは、カリキュラム・マネジメント（各学校において、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと）を実施する際に活用することができます。

算数・数学科との連携

▼2年 p.318



▼3年 p.207

ブリッジ算数 「速さ」は「単位時間」あたりに進む「道のり」で表す。小学校の算数では、「距離」と「道のり」を区別していたが、ここでいう移動距離は、「道のり」に等しい。

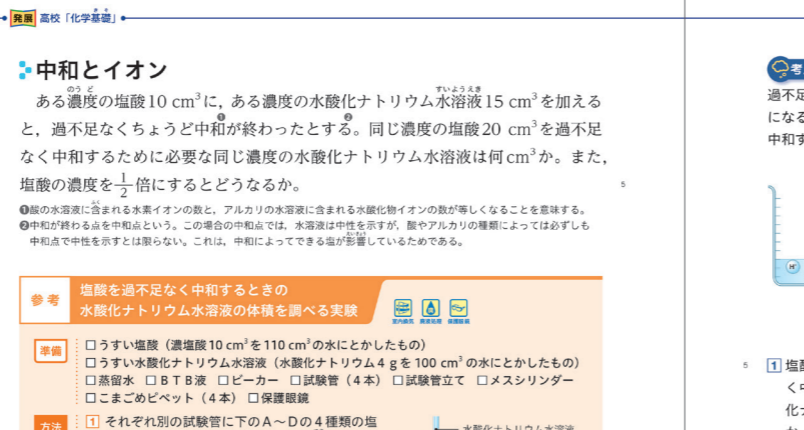
算数科・数学科との連携を重視し、「ブリッジ算数」「ブリッジ数学」マークを付した解説を新たに設けています。

高等学校との接続

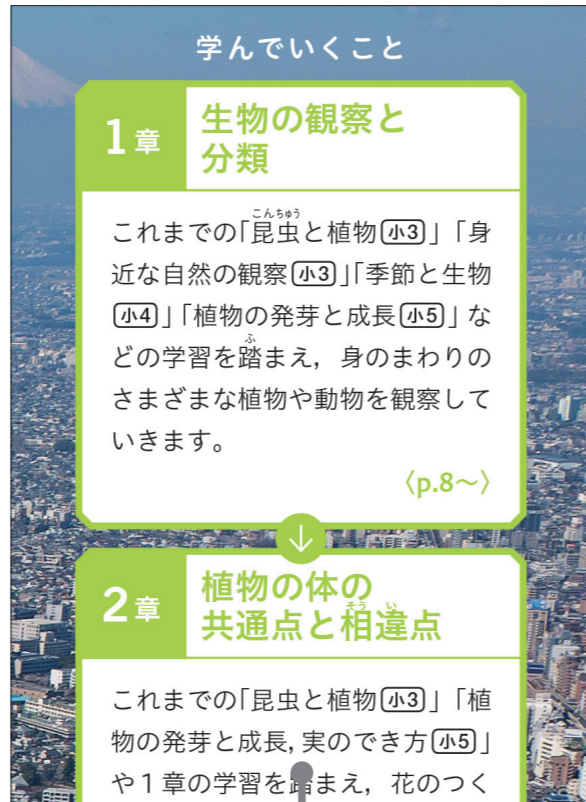
一歩進んだ理科の話題については、「発展」として紹介し、生徒のさらなる学習意欲に応えます。

高等学校の理科の基礎科目や「物理」「化学」「生物」「地学」の橋渡しとなる内容を「発展」として取り上げています。

▼3年 p.42～43



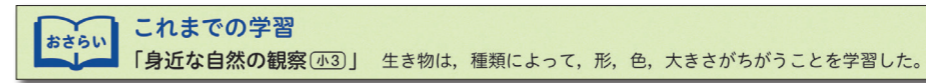
▼1年 p.7



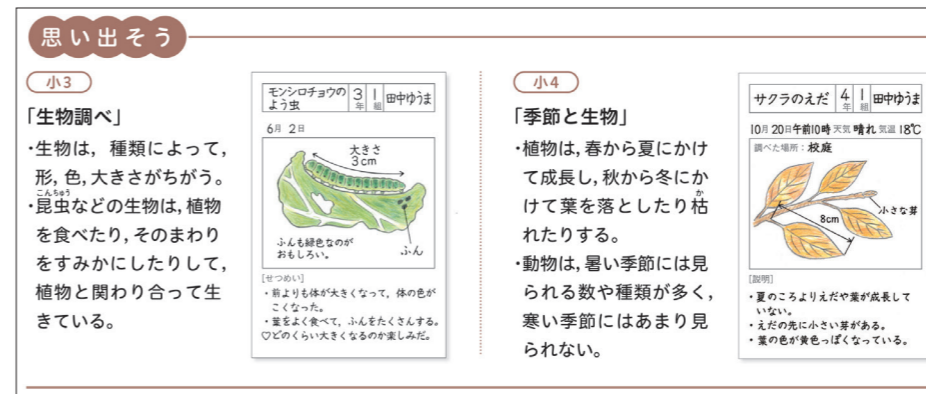
単元扉の「学んでいくこと」により、内容の系統を踏まえて、学習の見通しをもつことができます。

小学校との接続

▼1年 p.8



▼1年 p.14



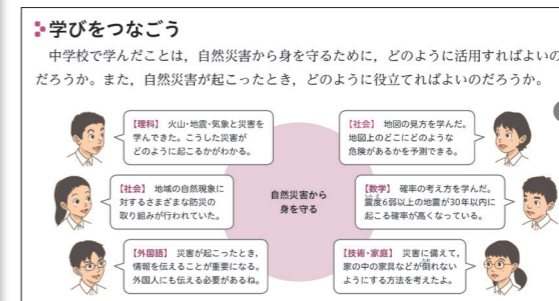
これまでに学習した内容のうち、関連する内容を随所で振り返ることができるようにしています。

さまざまな教科との連携

▼2年 p.76



▼3年 p.297



3年の領域統合の単元の中の自然災害に関する学習では、各教科での学習を生かして話し合う場面を表現しています。

編集部のイチオシ!

- ▶ 小・中・高の内容の系統を学習に生かしています。
- ▶ 他教科との連携を考慮したつくりで、カリキュラム・マネジメントに対応しています。

指導順を考慮した単元配列

1年	2年	3年
生命 単元1 いろいろな生物とその共通点	粒子 単元1 化学変化と原子・分子	粒子 単元1 化学変化とイオン
粒子 単元2 身のまわりの物質	生命 単元2 生物の体のつくりとはたらき	生命 単元2 生命の連続性
地球 単元3 大地の成り立ちと変化	地球 単元3 気象とその変化	地球 単元3 地球と宇宙
エネルギー 単元4 光・音・力	エネルギー 単元4 電気の世界	エネルギー 単元4 運動とエネルギー
		統合 単元5 自然環境や科学技術と私たちの未来

1 1年の単元1に生命領域を配置

今後の学習の基礎となる「分類」について学習する「生命領域」を1年の単元1に配置しました。この配置は、身近な春の生物の観察を行うことも考慮しています。一方、4月に生物の観察ができない地域においては、単元1と単元2を入れ替えて学習できるようにしています。

2 学習内容のつながりを考慮した配置

学習内容につながりのある電気とイオンについて連続して学習できるように、2年の単元4を「エネルギー領域」、3年の単元1を「粒子領域」にするなど、学年内だけではなく、学年を越えた学習内容のつながりも考慮した配列にしています。

3 1分野・2分野を統合した学習を3年の最後に配置

現行本で三つに分かれていた3年の領域統合の単元を一つにまとめ、3年の最後に配置しています。中学校の理科で学習してきたことを集約し、生徒自身が、持続可能な社会を見すえて行動を振り返り、判断する単元に位置づけています。

「伝統文化」への対応

科学技術が社会の中でどのように役立てられているのか、また、日本の文化や伝統にどのように関わっているかを積極的に紹介しています。



図13 山車が登場する埼玉県の祭りの例 (左上:川越市, 左下:秩父市, 右:米沢市)

▶ 3年 p.196

授業に役立つ資料と付録

1 豊富な資料

科学の話題を紹介するコラム「ハローサイエンス」を随所に掲載しています。学習内容と生活、安全、歴史、環境などの関係を意識しながら、身近な科学の話題や最先端の科学の話題について学習することができます。

また、各学年の巻末には、校外施設の活用に関する資料や前学年までに学習した基礎技能、単元の学習に役立つ補足資料などをまとめた巻末資料を掲載しています。

▼ 1年 p.110



▼ 2年 p.308



▼ 3年 p.353



2 学習を補助する付録

全学年の教科書に、授業の中で使用できる教材を付録として収録しています。

▼ 1年 生物カード



▼ 2年 原子のモデルカード



▼ 3年 星座早見作成シート

